

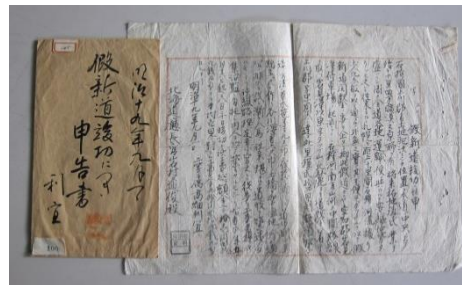
滝川市指定文化財

第1号（昭和56年1月26日指定）

高畑利宜資料

高畑利宜（1841～1922）が生涯にわたって残した文書を中心とした資料。北海道開拓期、特に上川、空知など内陸部の開拓期を知る重要な資料です。

高畑利宜は京都府生まれ、明治3（1870）年開拓史に奉職し、同4年札幌に移り、同5年上川地方を踏査。この時の復命書が上川内陸を知る貴重な資料となりました。退官後には上川道路に5駅通をつくり、滝川に居をかまえて後に酒造業、請負業、運送業など多くの事業をおこすなど、滝川の発展に貢献しました。



第2号

※屯田兵第二大隊第三中隊文書を含む文書の北海道文化財指定により欠番

第3号（昭和56年1月26日指定）

華月館

華月館は、三浦屋（旅館）二代目・三浦庄作が、大正3（1914）年、御料局（帝室林野管理局）滝川出張所の払い下げを受け、菜の花通り（現：花月町）に移転し、翌4年に奥座敷を増築したもので、三浦屋の貴賓室として要人宿泊に利用されました。

和洋折衷の様式で数々の調度品もあわせて、明治から大正期の民間高級住宅の趣を伝えています。



第4号

※タキカワカイギョウ化石の北海道文化財指定により欠番

第5号（昭和56年9月1日指定）

屯田兵屋

明治23（1890）年7月、南・北滝川兵村（一部明治22年12月）に440戸・1,931人、明治27年5月に南・北江部乙兵村400戸・1,788人の4兵村が配置されました。

兵屋のつくりは、基本的には間口5間（約9.1m）、奥行き3間半（約6.3m）で17坪5合（57.85㎡）の広さです。木造平屋建、桁ぶき屋根には煙だしがつき、内部は屯田兵が軍事と農事を兼ねていたことから農家の形態になっていました。

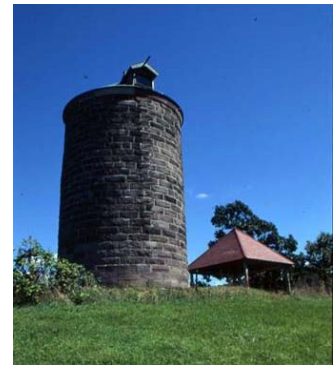


第6号（昭和57年6月26日指定）

牧羊用石造サイロ

この札幌軟石造りのサイロは、滝川種羊場のめん羊のための冬期飼料庫として大正12(1923)年9月13日に建てられたもので、昭和47(1972)年まで使用されました。大きさはサイレージ容量100トン、高さ38尺(11.5m)、直径18尺(5.45m)あります。

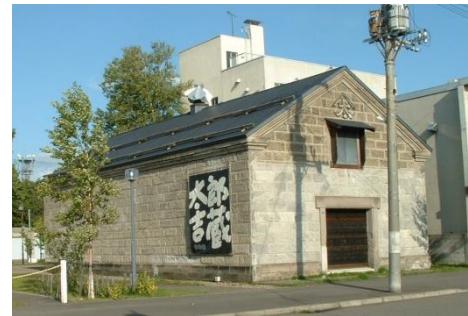
移設復元に伴い地形形状の制約から、作業場の一部を短縮し、鉄骨で補強して展望用階段を付設した現在の姿となりました。



第7号（平成22年12月1日指定）

太郎吉蔵（旧五十嵐酒造店倉庫）

大正4(1915)年に営業を始めた五十嵐酒造店の保管用倉庫として、大正15(1926)年に建築されました。北海道内から産出された軟石を使用した石造倉庫で、木造石造平屋建の面積174.01㎡、特殊な小屋組構造を有しています。滝川駅前に位置しており、商業地として繁栄を誇った滝川の歴史を伝える貴重な建造物です。



第8号（平成25年12月1日指定）

北海道人造石油株式会社滝川工場関連資料

北海道人造石油株式会社滝川工場は、昭和13(1938)年、国策として「石炭から石油を作る」ために設立されました。最盛期で従業員が2,000人を超え、「東洋一の化学工場」といわれました。終戦後、滝川化学工業株式会社として再スタートしましたが、大きすぎる生産設備が災いし、昭和27年に倒産しました。

国内の人造石油製造工場に関する資料は、空襲での焼失や戦後焼却処分されるなどしてほとんど残されていませんが、滝川工場の資料は、空襲を免れたこと、工場が滝川化学工業株式会社として戦後しばらく存続したこと、工場に勤めていた人が所有していた資料を滝川市に寄贈したことにより多くの資料が残されており、これらの資料は滝川の歴史及び日本の化学技術と化学産業の歴史の一側面を示す貴重な歴史資料です。



北海道指定文化財

北海道指定天然記念物（昭和 59 年 3 月 12 日指定）

タキカワカイギュウ化石標本

この化石は昭和 55 (1980) 年 8 月に滝川市内を流れる空知川の河床から発見されました。タキカワカイギュウは、今から 500 万年前（前期鮮新世）、滝川がまだ海だったところに生息したジュゴン仲間です。体長は約 8 m あり、歯をもたず、やわらかな海藻を食べていました。全体の約 70% の化石が産出し、調査の結果、ヒドロダマリス属の新種であることがわかりました。日本で寒冷に適応した海牛が独自に進化したことを明らかにした貴重な化石です。



北海道指定有形文化財（歴史資料）（平成 28 年 3 月 31 日指定）

滝川屯田兵文書（第二大隊第三中隊・第四中隊文書）

屯田兵に関する記録文書は、昭和 20 年の敗戦時に軍組織に関連する文書とみなされ多くの中隊本部で焼却処分してしまったため、現存する文書は多くありません。この第二大隊第三中隊の文書は、兵村小学校（現滝川第二小学校）に移管されていたため廃棄されず、そのまま保管されていました。

指定された資料 61 点は、給与地の地図をはじめ、月報・演習・戸籍など、軍事訓練に関するだけでなく、農業のこと、日常生活のことなど、最後の士族屯田に係る兵村の暮らしぶりを探ることができる貴重な資料です。

